

第14回北谷町地域公共交通会議議事録

会議録署名人 徳田 伝

- 1 開催年月日：令和4年4月27日（水）
- 2 会議時刻：10時00分から
- 3 会議場所：北谷町役場 3階 庁議室
- 4 出席委員
 - (1) 仲松 明 北谷町副町長
 - (2) 野原 広邦 内閣府沖縄総合事務局運輸部陸上交通課長
 - (3) 当真 嗣章 内閣府沖縄総合事務局運輸部企画室室長補佐※代理出席
 - (4) 名嘉山 敬雄 沖縄バス株式会社運輸部業務課長
 - (5) 大岡 純士 株式会社琉球バス交通業務課主任
 - (6) 慶田 佳春 一般社団法人沖縄県バス協会専務理事
 - (7) 仲宗根 仁志 北谷町自治会長連絡協議会会長
 - (8) 米須 義明 北谷町商工会会長
 - (9) 石原 洋一 北谷町観光協会事務局長※代理出席
 - (10) 徳田 伝 北谷町北前区自治会会長
 - (11) 岡村 悦子 北谷町美浜区自治会会長
- 5 欠席委員
 - (1) 神谷 大介 琉球大学工学部工学科准教授
 - (2) 大城 元秀 内閣府沖縄総合事務局南部国道事務所副所長
 - (3) 山根 博文 沖縄県中部土木事務所技術総括
 - (4) 當間 秀規 沖縄県警察沖縄警察署交通対策課長
 - (5) 東江 一成 沖縄交通事業協同組合代表理事
 - (6) 喜屋武 悟 私鉄沖縄県労働組合連合会執行委員長
 - (7) 津波古 修 沖縄県ハイヤー・タクシー協会事務局長
 - (8) 玉城 清松 北谷町老人クラブ連合会会長
- 6 事務局
 - (1) 北谷町役場
 - ①花城 可津人 企画財政課長

②眞喜志 康仁 企画財政課企画調整係長

③屋嘉 大智 企画財政課主事

7 説明又は意見を求めるために出席した者：なし

8 傍聴人：1名

9 議 題

- (1) 北谷町コミュニティバス実証運行事業の現状報告
- (2) 令和4年度北谷町コミュニティバス実証運行計画（案）の策定
- (3) 北谷町地域公共交通活性化協議会の設立について

10 会議資料

- (1) 次第
- (2) 座席配置図
- (3) 北谷町コミュニティバス実証運行事業の現状報告【資料1】
- (4) バス利用者アンケート調査の実施【資料1-1】
- (5) 令和4年度北谷町コミュニティバス実証運行計画（案）の策定【資料2】
- (6) 北谷町地域公共交通活性化協議会の設立について【資料3】

11 会議内容

～公開～	
次第2 委員・事務局の紹介	
事務局	それでは次第の2委員・事務局の紹介を行います。 【各委員・事務局の紹介】
次第3 会長及び副会長の互選	
事務局	つづいて次第の3に移ります。 会長及び副会長の選出となります。会長及び副会長の選任は、北谷町地域公共交通会議設置要綱第5条の規定により、委員の互選により定めることとなっております。 互選の方法ですが、事務局より予め腹案を準備しておりますので、ご提案させていただいてよろしいでしょうか。
各委員	異議なし。
事務局	それでは、事務局としましては、会長に仲松副町長、副会長に琉球大学工学部工学科の神谷准教授を推薦したいと考えております。なお、神谷准教授につきましては、本日欠席となっておりますが、予め了解を得ております。ご異議がなければ拍手をもって承認いたします。
各委員	【拍手多数】
事務局	ありがとうございます。拍手多数のため、会長に仲松副町長、副会長に神谷准教授とすることに決定いたしましたので、よろしくお願ひいたし

	<p>ます。</p> <p>それでは、これからの議事進行につきましては、北谷町地域公共交通会議設置要綱第6条第1項の規定により、仲松会長が議長となり、進行することとなりますので、仲松会長よろしくお願ひいたします。</p>
会長	<p>皆様、改めてこんにちは。私事ですけれども4月1日付けで、副町長に拝命いたしました仲松でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>担当として、公共交通の所管事務をこれまで担当いたしました、6年間、この地域公共交通会議を平成29年に開いて、県内の公共交通についてどれだけ重要な、これから少子高齢化に向かっていく中で、公共交通が民間の交通事業者の利益を確保しながら公共交通を担っていくところ、非常に厳しい状況にあることを把握して、法律も勉強するようになって、何とかして、県民をあげて、この公共交通というものを、沖縄県ならではの、実情に合わせた、また、北谷町に合った旅客運送サービスというものをどう築いていくかということを大きく感じた6年間でした。</p> <p>私は、議会の中でも、コミュニティバスを含め公共交通というのは、これからの時代、まちづくりに重要な要素になると、また、観光客に選ばれる北谷になるためには、横移動というものは非常に重要ですということをお願ひしてきました。</p> <p>引き続き皆様の協力を貰いながら、北谷町及び沖縄独自の旅客運行サービスというものを築いていければと思っております。</p> <p>皆様には引き続き、北谷町公共交通会議の委員を引き受けて頂き、深く感謝申し上げます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、会議に入っていきますが、まずは、事務局からこの会議の成立要件について報告をお願ひしたいと思います。</p>
事務局	<p>北谷町地域公共交通会議設置要綱第6条第2項「交通会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことはできない。」とありますが、今回出席委員11名、委任5名となっており、全19名の委員中16名の出席が認められますので、成立要件を満たしております。以上です。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>委員の過半数が出席しておりますので、この会議を開きたいと思ひます。</p> <p>本日の議題は、次第の4にあります通り、(1)～(3)まででございます。</p>
<p>次第4 議題(1)北谷町コミュニティバス実証運行事業の現状報告</p>	
会長	<p>まず、「北谷町コミュニティバス実証運行事業の現状報告」となっております。</p> <p>平成29年にコミュニティバスを定期路線型でスタートし、町民の声を聞きながら、これまで回数券の発券や北側・南側ルートを接続させるため無償で乗継ぎができる券の発券、200円の運賃を高齢者や障がい者の方等へは半額とし、バスロケーションシステムを導入するなど、町民の声、エンドユーザーの声を聞きながら成熟してきたコミュニティバス事業でございます。さらにこれを改善するため、昨年7月からはデマンド型ということで、既設のバス乗降所を利用してのデマンド、今、北谷町シルバー人材センターがオペレーションし、予約を受け付け配車し、運行は琉球バス交通へ委託しているところで、アンケート結果からも、デマンドにしてよかったという声が多く寄せられております。皆様</p>

	<p>の要望にかなり近づいてきたかなと感じているところでございます。そういったこの令和3年度の実証事業の現状報告ということで、事務局企画財政課から説明を受けたいと思います。お願いします。</p>
事務局	<p>「北谷町コミュニティバス実証運行事業の現状報告（資料1）」及び「バス利用者アンケート調査の実施（資料1-1）」説明。</p>
会長	<p>ありがとうございました。 ただいま、令和3年度までの経緯とデマンドへ切り替えたところでの利用者アンケートの分析等の説明がございました。 これまで、定期路線型で行ってきた中で、中々時間帯が合わなくて乗ることができなかったから利用しないという意見やバス停留所から遠いから乗らないという意見がある中で、何故利用しないかというところを改善するため、デマンドへ切り替えたことによって、今まで利用されていなかった乗降所が新たに利用されてきていることがデータとして、1日平均の利用者も、コロナ禍の中でも増えてきているというデータがありました。ただ、収支率ですね。今までなかった予約センター受付の業務が乗っかり、分母の方が大きくなってきているので、収支率が悪化したとの説明がございました。 今、事務局から説明があった中で、ご質疑あれば挙手でお願いいたします。</p>
委員	<p>コミュニティバスの運行事業の現状報告の中で8ページの方で、乗降所別1日平均利用回数について、デマンド型に変わって、グラフの1番下の方に関して、「北玉公園前」が0.05、「玉上東」が0.06、「桃原東」、「北谷小学校北」の方ですが、わかる範囲で構いませんが、ダイヤの廃止等考えておりますか。</p>
事務局	<p>デマンドに切り替えてからは、ダイヤやルートがなくなっております。予約に応じて運行しているものとなっております。以前の路線定期運行のころには、バス停の利用が少ないとバス停を廃止する等の見直し基準がありました。デマンドについては、基本的に半径200mの範囲に乗降所を設置しておりますので、利用が少ないからといって廃止する等の検討はしていません。</p>
会長	<p>恐らく今のご質問は、これまでの路線定期型というものでは、我々が収支率とこれを本格運行へ移すにあたっての基準を定めています。収支率が25%、各バス停留所の1%を切るものについては廃止を検討するという基準を設けていたところのご質問であったと思います。 今回はデマンドになって、乗降所を起点に様々な効率的なルートを選択することになっていますので、この1%という基準も今年度見直さないといけないと考えております。 他、ございますでしょうか。</p>
委員	<p>委託料の方が年々増額となっているということと、乗合い率が下がってきていると説明がありました。資料1-1の16ページについて、「切り替えで不便になった点」ということで、「早目に予約しないと利用できなくなった」というご指摘が39%、デマンド型については、いかに乗合い率を上げるかということが収支率の改善に繋がるものと理解しております。この「早目に予約しないと利用できなくなった」とのことですが、運行体制として、いつまでに予約しないといけない等決まりがありますか。ありましたらご説明お願いいたします。</p>
事務局	<p>予約については、一週間前から当日の30分前までの予約が可能となっ</p>

	<p>ております。関連しまして、デマンドの運行の形態については、30分間隔での運行となっており、予約についても、8時や8時30分という30分間隔での予約を受け付ける設定となっております。</p> <p>当日も30分前であれば予約を受け付けることは可能ですが、「早目に予約しないと利用できなくなった」という意見については、利用者数が増えてきており、当日の予約となると、予約が埋まってしまい、利用したい時間に予約できないということが原因として挙げられます。</p>
委員	<p>この「早目に予約しないと利用できなくなった」というご指摘については、大変いいものであると、ただ、乗合い率を上げるためにどのような方策を今後取っていくのか、収支率を上げるためにですね。「1台当たり乗車平均」の資料がありましたか。それを上げていかないと、今の運賃200円を維持していくとすれば将来的に厳しくなるのかなと、運賃を上げるとするのは、非常に大きな作業になりますが、やはり、将来的には少し運賃を上げるとすることも視野に入れながらデマンドについては、進めていく必要があると思います。</p> <p>バス事業者は、コロナ禍の影響で、3割近くの乗合バス（の乗車人数）が減少しておりまして、令和3年度は約10%近くと若干戻ってきております。運賃を上げるという動きもありますが、現状の沖縄の路線バスの運賃というものは、非常に高額という意見が多数を占めておりまして、運賃の値上げについては、今後検討していかねばならないという非常に大きな課題があります。ただ、上げれば、当然、逸走率と言いまして、お客さんは逃げていきますから、その逸走率をいかに低く抑えるかというのがバス事業者の今後の対策であると思っております。ですから、北谷町のデマンド交通についても、運賃も少し値上げすることも視野に入れていただければいいのかなと思います。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今の件について、まず、30分間隔の設定の考え方を事務局から説明お願いします。</p>
事務局	<p>30分間隔と設定しておりますのが、北谷町の端から端まで30分で移動できるであろうという考えで設定しておりまして、また、30分間隔の予約の中で、乗って降りて、次の予約までの移動時間を考慮して、30分の間で、20分で乗り降りが完了するような受付方法をとっており、残りの10分で次の予約へ対応できるような体制となっております。</p>
会長	<p>乗合い率を上げることに关しては、何か考えはありますか。</p>
事務局	<p>特に事務局でというものではないですが、予約受付を行っているシルバー人材センターが、乗合い率を高めるような予約の受け付け方ができないかということで工夫しているところですが、明確に効果が出てはおりません。事業者へのヒアリングを行った際にはそのような声がありました。</p> <p>ですので、受付の仕方によっては、もう少し乗合い率を高めることができるのではないかと考えております。</p>
委員	<p>南城市の方でも同じように「おでかけなんじい」というものを実施しておりますので、南城市のやり方についても調査されて、いいものは取り入れるべきではないかと思ひます。</p>
会長	<p>提案で運賃を上げる話がありました。アンケートのデータでは、今の100円、200円で満足度が非常に高い中で、また、路線バスもそのこ</p>

	とについて苦勞していると、逸走率を上げてしまうのではないかとある中で、非常にシビアな検討になってくるかと思われます。そのことについては、事務局として考えていることはありますか。
事務局	実証運行の間は運賃改定の検討はしておりませんが、本格運行に移るにあたっては、確かに、デマンド運行を続けるのであれば、収支率の観点からも、運賃改定の必要があるかと考えております。
会長	利用されている方のほとんどは、リタイヤされた方で、病院とか家族がお迎えに行けないとかというところで、非常に助かっているとの声がある中で、（運賃を）上げるというのは非常に慎重に検討しないといけないですね。
委員	<p>事業目的の中で「観光資源の周遊性の向上」とか、基本方針の中の③「観光客の移動の利便性・回遊性向上」ということで、やはり観光客の利用も上げていくべきではないかと思ひまして、現状として、観光協会が積極的に出していなかった気がします。C-BUSの情報が観光客向けには出されていないと感じております。ただ、データを見るに交通弱者、移動手段がない方が利用していると感じておりまして、20代～40代の方は車を持ち、運転もできるので利用されていないことはわかる気がします。そこで、その20代～40代世代の方の層は観光客へ上手くアピールすれば、北谷町のひとつの足として利用してもらえないかと思ひます。</p> <p>ですので、観光協会としても、「資料1」の5ページのチラシを頂いてカウンターにでも置いて、「バス停はどこですか」、「那覇行きのバスはどこでのればいいですか」相談を案内所でお聞きした際には、既存の路線バスへの案内はすることはありますが、C-BUSに関してはたまに聞かれるくらいで、認知度が低いので、そこはもう少し認知度を上げて、観光客の北谷町内でのアクセスの足として使っていただけるように協力できるのかなと思ひております。</p> <p>実際、レンタサイクルが、結構出ていくので、美浜から少し移動して、沖縄市まで移動している観光客もいるので、もう少しアピールすれば観光客も取り込めると思ひます。そのために、先ほど言ったチラシについて、今後ご相談させていただければ、我々としても協力していきたいと考えております。</p> <p>後、チケット販売もやっているということですが、例えば、観光客向けの1日乗車券を作っていただくと、観光客の取り込みにも有効になると思ひます。以上です。</p>
事務局	観光協会の方にはリーフレットをお渡ししているところでしたが、チラシについても置かせていただければと思ひます。
会長	今、北谷Ma a Sということも考えて、エリア毎に、あるいはエリアを超えて、様々な移動手段を活用してシームレスに繋いでいく、我々北谷町は、開発が西海岸のところから120mの開発までであるので、その地域に合わせた横移動手段というのが、それぞれあると思う。今、レンタサイクルという話もありましたように、これは地域公共交通計画の中でまた、次の話がある計画の中で、SDGsやカーボンニュートラルという話もあるので、広く、長くこの事業が続けられるような視点で取り組んでいただければと思ひます。
委員	「資料1」の7ページの去年の実績報告で、利用者が12,292人、11ページの登録者が916人、ももとの計画として町はどのくらい

	を目標としていたのか、これは書いているのか。
事務局	利用者数の目標については、収支率の25%を達成できるというところを目標としておりまして、目標値としては収支率の25%となります。
委員	「資料1-1」の15ページに関することですが、7月からデマンド運行に変わって、今まで利用していない方に利用していただいたり、利用しやすくなったという声をいただいたり、後は、路線バスでカバーできないところをデマンドの方でカバーしていただいているという事実がありますが、15ページの切り替え前の移動手段の中で、路線バスが25%とありまして、バス事業者も厳しい中で25%というのは決して無視できない数値と思っております。 デマンドがダメということではなくて、デマンドではデマンドでしかできないことがあると思いますので、路線バスとちゃんとした棲み分けができるような運賃や、エリアを分けるなど、本格運行に向けて計画していただければと思います。
会長	「資料1-1」の15ページ、切り替え前の移動手段、これが路線バス、あるいは、タクシーから北谷町のC-BUSに乗り換えたところ、今まで路線バスを利用していた方がC-BUSに乗り換えたところ、それぞれの棲み分け、北谷町が走らせているC-BUSは交通弱者や空白地を埋めて、路線バスに繋げていくと、広域に移動できるようところも含めて、これまで「マイ時刻表」の作成など各老人会を回って、C-BUSから路線バスに乗り換えについて説明会を行っておりますが、そのデータがここにはなく、逆に、C-BUSから路線バスに移ったというデータがないのでこのような表現になっています。そのことについて事務局から説明ありますか。
事務局	公共交通からの転換が多いということで、コミュニティバスについては、空白地域への対応や、観光客の周遊性向上を目的としていますので、現在、公共交通を使われていない方たちへ、何故公共交通を利用しないかというところの調査を進め、公共交通全体を利用してもらえるような掘り起こしができればということで検討調査していきます。
会長	我々が、C-BUSを走らせる時に調査したアンケートの内容では、7割の方が運転免許証を持っているので、利用しないというところからスタートした。しかし、今、周辺には、それに代わるようなインフラが残念ながら多くはない。そして、道路を整備していくインフラ整備というものも限界に達しており、交通渋滞がままならないという状況を鑑みると、沖縄県のモータリゼーションも米軍がいたところからスタートした戦後の歴史的なものもある中で、この意識を改革するところは、我々のミッションだと思っております。 これは、この公共交通会議を通して気づいてところでもあります。そこに負荷をかけない、自然ということにも目を向けて、新たな公共交通の利用者を掘り起こしていく、今、事務局がお話したところは、目に見えるような形でデータが取れるのであれば、北谷町の取り組みが見えるような形で、我々の役割をアピールしていただければと思います。
委員	「資料1-1」18ページに「1日あたりの支払い意思額」とあるのですが、これがアンケートの内容にあるということは、一日周遊券等の検討をされているかと思いましたが、その辺お聞きしたいと思います。
事務局	1日乗車券等、具体的な内容を詰めているわけではありませんが、今回のアンケートでは1日の支払い意思額を把握し、デマンド運行について

	<p>は、1日乗車券の対応が難しいところもございますが、他市町村の取り組み等も参考にし、検討できればと考えております。</p>
委員	<p>先ほどお話ありましたが、公共交通機関からの転換が非常に気になっております。いかに、マイカーを使っている方から掘り起こしをして公共交通へ結びつけていくか、課題としては常に認識はされていると思うのですが、中々有効な手立てがないということもあって、一朝一夕に良くなるようなものではないと認識していますが、引き続き、そこについては、向き合うような形で需要喚起をしていただきたいと、公共交通同士で奪い合うという形は好ましくないとしますので、やはり、役割分担をしっかりといただいた形で連携して、有機的なシームレスな動きということ意識していただきたいと思います。</p> <p>また、今回これだけ実績の資料を作っていただいて、いろんな人の視点からの資料となっておりますが、今回、実績を踏まえて運行自体がどうであったのか、全体的な評価というものは資料の中に示されていないので、北谷町で今回の結果を踏まえた形で、どういう評価なのか、どういう課題があったのかということを確認にさせていただいて、次の議論になると思いますが、令和4年度の運行計画（案）に結びつけていくという流れになっていくのかなと思っておりますが、この辺の全体的な評価についてどう捉えていて、どういうところが課題となっているのかということをお示ししていただけるとありがたいのですが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>事務局として今回の実証の結果としましては、運行経費の増加による収支率の悪化が課題と思っております。また、運賃収入については、大きな変化はありませんでしたので、やはり、経費が大きくなりすぎているという点が課題となっております。利便性については、利用者の行きたい時間に行きたい場所に行けるといところでの利便性の向上があり、新たな利用者の発掘は見込まれるであろうと認識しております。</p> <p>あらゆるニーズへ対応できるというところでは、町民及び観光客の満足度の向上に繋がっていると考えております。</p> <p>本格運行の課題としまして、やはり運行経費がありまして、現状の区域運行を続けるのであれば、車両のダウンサイジング化を行うことで、委託費の削減ができるのではないかと検討、収入の確保に関しては、公共交通計画を策定する中で、公共交通を利用しない理由等の調査を行いまして、また新たな利用者の創出を図り、他の市町村が行っている広告収入や、バス停オーナー制度（事業者提携による収入）の導入の検討が必要と考えております。あとは、運賃の改定を検討しているところです。</p> <p>デマンド運行は令和3年7月から運行開始しており、認知度はあまり上がっていないことから認知度の向上を図るためコミュニティバスの周知を徹底したいと考えております。アンケートの結果で見られました、公共交通からの転換がございましたので、既存の路線バスやタクシーとの連携が重要と思っております。また、本格運行については、このまま区域運行でいくのか、路線定期型でいくのかの検討が必要かと事務局としては考えております。</p>
委員	<p>おっしゃっていただいた課題はたくさんの項目があったと思いましたが、そういったものを会議の資料の中で調査結果、あるいはアンケートの結果を踏まえて、こういう課題がありますというところを資料として掲載していただいて次の議論に繋げていくという形にさせていただくというのかなと思っておりますので、次回以降そういった形で検討していただける</p>

	とありがたいと思います。よろしくお願ひいたします。
会長	様々な課題と対策を考えているようなので、他の委員からもありました乗合い率をどう上げるかというのも一つの解決策とアドバイスをいただいているので、そういった課題と対策というのを分かりやすいような形でまとめてください。 他なければ、次の審議事項に移りたいと思います。
議題（２）令和４年度北谷町コミュニティバス実証運行計画（案）の策定	
会長	（２）令和４年度北谷町コミュニティバス実証運行計画（案）の策定について、事務局説明をお願いします。
事務局	「令和４年度北谷町コミュニティバス実証運行計画（案）の策定（資料２）」について説明。
会長	はい、ありがとうございます。 これまでのデマンド運行と変更したところというのは、２ページ目の回数券の販売と、以前の定期路線型の時に導入したが、デマンド運行が始まって一旦途切れましたが、それをまた復活させるということでもあります。そのことについて、今、令和４年度の運行計画についてご質問ありましたらお願いします。
委員	回数券はいつから始まりますか。
事務局	会議で計画を決定し、沖縄総合事務局の方へ運賃の変更の届出が必要になりますので、その認可が得られた日以降となります。
委員	常時利用されている方は大体把握されていらっしゃるでしょうか。であれば、この回数券の発券というのは、こういった形で販売していかうと計画されていますか。バス車内での販売なのか、それとも、どこか場所をお借りして販売するという計画なのか。いずれにせよ、一枚が無料になるので、減収につながるのではないかという気がするのですが、極力、ヘビーユーザーと言いますでしょうか、そういう方々に対して、回数券を活用していただくような方法を考えていただきたい。販売方法についてどうか。
事務局	利用者の情報については、利用者登録というところで、把握しております。小学生の保護者や、お年寄りの方から小銭を持ちたくない、持たせたくないといった意見をいただいております、小学校の帰りに利用される方も見られますので、回数券の導入を考えております。 販売方法につきましては、以前、路線定期運行時に行っていた、事務局のある企画財政課での販売を考えております。
委員	販売箇所は一か所ということではよろしいですか。車内での販売は検討されていないということで。
事務局	そうです。
委員	できれば車内で販売された方が、非常に便利だなと、わざわざ役所に来て購入すると、どれくらいの方が購入するのか少し心配です。 それを委託する事業者（運行事業者）が引き受けなければできないということですね。
事務局	運行している事業者と調整し、検討してみます。
委員	今回の計画の案の方では、回数券の部分以外は基本的に従来の運行から変更はないということで、ここに示されている内容では、ほぼ変わりがなく運行していくという案になっておりますが、先ほどお話ししたとおり、前回まで実施していただいている内容の課題を踏まえた形で計画案を作

	<p>るとというのが本来の姿かなと思っております、今回中身がほぼほぼ従来のまま変わっていないというところを考えると、運用面で課題をうまく改善していくような方向性で考えていく必要があると思っておりますので、運行にあたって、計画案自体に反対することではないですけども、運用上で、こういった課題を意識しながら必要に応じて改善していくことはしていただいた方がいいかなと思えました。</p>
事務局	<p>課題となっております収支率の改善について、新たな利用者の発掘ということで、コミュニティバスの周知の方を徹底していくというところと、運用の方でも令和3年7月から始まった予約受付ですが、シルバー人材センターの方も慣れてきておりますので、そこから乗合い率をどう上げていくかというところを検討しながら利用者の増に繋げていきたいと考えております。</p>
委員	<p>今年度の計画というより、その次のものですが、実証期間が今年度まで、そうすると次の本格運行に向けて、あるかないのか、実証になるのか、どういう議論をしていくのか、スケジュール等を含めて、どういう風に今後のこと考えていらっしゃるのか説明お願いいたします。</p>
事務局	<p>具体的なスケジュールは決まっておらず、抽象的ですが、本格運行に至るプロセスとしましては、役場庁内の検討委員会にて本格運行に向けた基準の決定、本格運行の決定を行い、地域公共交通会議については、その報告をさせていただければと思います。スケジュール感としましては、年内には決定していきたいと考えております。</p> <p>今年度は、北谷町地域公共交通計画の策定を予定しております、協議会を新しく立ち上げる所にはなりますが、メンバーについては、この地域公共交通会議のメンバーで進行していく予定であります。そちらと連携しながら、計画とコミュニティバスのご意見を伺いながら実施していきたいと思っております。</p>
会長	<p>民間事業者による公共交通の確保というのが非常に厳しい状態となっており、私たちがここに乗り込んで協力してやろうと平成29年から、一定程度の財政の支出は仕方ないと実感しております。また、町民の皆様からアンケートを貰いながら、これをやめますというのは、非常に厳しいのではないかと、私は議会の方でもそう答弁しているのですが、町民の理解を貰いながら、北谷町の公共交通、そして、沖縄県の公共交通にどう寄与していくかっていうのは、財政支出は確保しながら末永く続けていかないとできない事業ではないかと私自身感じているところで、これから策定する地域公共交通計画につきましても、皆さんの協力を貰いながら、そして町民及び県民の理解を貰いながら、この事業を進めていかなければならないと思っております。ただ、財政の負担経費が大きいためもうこれはやめるということだけではなくて、将来を見据えたまちづくりというのを一緒に考えながら、進めていかなければいけない課題かなと思っております。庁内の方でも、検討協議している中でこの経費を別のものに充てた方がよいのではないかと意見が実際あるので、庁内でも理解を貰い、方向性を定めて、スタートした当時の目標からブレないような形でこの事業を進めなければならぬと思っております。</p> <p>他なければ、3つ目の議題へ進みたいと思っております。</p>
<p>議題（3）北谷町地域公共交通活性化協議会の設立について</p>	

会長	それでは、最後の北谷町地域公共交通活性化協議会の設立について、事務局より説明をお願いします。
事務局	「北谷町地域公共交通活性化協議会の設立について（資料3）」説明。
会長	今、説明があった規約は、国の手引きや規程例がありますか。
事務局	手引きと他市町村の規約を参考にし、作成しております。
会長	負担金や収入の部分は補助金のみで、北谷町と国の補助金が入っておりますが、負担金で各組織が負担することも想定されていますか。
事務局	各組織が負担するものは想定しておりません。 北谷町地域公共交通会議もいずれ活性化協議会へ合併する予定ですが、基本的には委員報酬等も北谷町の補助で実施することを想定しております。
会長	今回の活性化協議会は、公共交通会議では過去に交通網形成計画を策定しておりますが、その計画が、今読み上げた規約の中で、地域公共交通計画と名前が変わって、それを策定する協議会となります。また、その計画に書かれたものの実施するという組織になります。今までとは、踏み込んだ形で、この公共交通に関して、予算も持ちながら、事業もやっていくという組織となります。 そのことについて、沖縄総合事務局よりなにか補足はございますか。
委員	今回、地域公共交通計画を策定いただくということで、感謝申し上げます。北谷町にどういう交通が相応しいのかということ計画としてしっかり築いていただくようお願いしたいと思います。我々もできる限り協力させていただきたいと思います。 その上で質問があります。 今回、この規約の承認をすることで協議会は成立するという認識でよろしいでしょうか。あと、5条の方の委員について、従来の公共交通会議のメンバーと一緒にということにはなっていますが、活性化再生法の中に法定メンバーがあると思いますが、その要件が満たされているかを確認していただきたい。また、今、開催されている公共交通会議の中の規程には、網形成計画の策定というのが謳われていますが、その改正が必要ではないのかというところをお聞きしたい。
事務局	本規約の承認をもって、協議会の設立としたいと考えております。また、委員のメンバーについては、活性化法の法定メンバーに沿って規約に示しています。
会長	交通事業者の方々は、この交通計画というところの組織については、どの程度の情報がありますか。これまでの公共交通会議と少し役割が変わってきているので、今規約の承認というところで、会社から代表しているのか、会社の稟議も必要となつてこないかと思ってお聞きしたところでございます。
委員	豊見城市は明日、活性化協議会がありますが、これまで公共交通会議等開催しておりましたが、今回、活性化協議会の設立にあたっては、担当者の方が説明しにいらしています。委員を引き受けてもらえませんか、委員として上がっている方については、各社を訪ねてお願いをしておりますので、町としても、バス事業者を含めこういった形で活性化協議会を立ち上げるのでよろしくと一言いえば大丈夫だと思います。
会長	事務局よろしいですか。新しい組織になってくるので、会社を代表して、今この公共交通会議ということで出席しているので、そこは改めて

	お願いすることは必要だと思います。
委員	委員を選任する時というのは、何かしら文書で委員選任のお願いというのは市町村であると思いますので、そういった慣例に則って形的には出していただいた方が会社としても、報告がしやすいと思います。
委員	交通会議から移行していくという考え方なのか。それとも平行していくのか。
事務局	今年度に関しては、平行で考えております。ただ、基本的には会議はまとめて開催するよう考えております。
委員	再度確認ですが、今日でもって新しい協議会は成立するという認識でいいですか。
事務局	そうです。
委員	危惧していますのは、今回、国庫補助の申請をいただくので、協議会がそれまでに成立していないと交付申請ができない格好になってしまうので、そこを懸念しております。そこは問題ないということでしょうか。
事務局	今回の規約について、会長が副町長となりますので、規約について承認していただき、委員には改めに会長名で依頼いたします。
会長	この会議でルールが問題なければ承認いただいて、改めて各会社から推薦いただく手続きについては丁寧に対応していただくということでしょうか。
委員	先ほど質問したが回答を得られていないもので、今、開かれている公共交通会議の要綱の改正の可否はいかがでしょうか。
事務局	順次改正いたします。
会長	他、ご意見等なければ、北谷町地域公共交通活性化協議会の規約については、承認したいと思います。よろしいですか。
各委員	はい。
会長	事務報告です。 今回の会議は、公開ということで、会議録署名委員の指名をさせていただきます。本日の会議録署名委員は、徳田委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。
委員	はい。
会長	ありがとうございます。内容によっては審議に影響がある場合には、非公開という選択肢もございますので、先にそれを諮って、これからの会議は進めていきたいと思っております。 これで第14回北谷町地域公共交通会議を締めたいと思っております。本日は、どうもありがとうございました。